

「キリンはかせになるろう」

単元目標

キリンについて、体のつくりと働きや暮らし、成長の様子に着目して、興味や関心をもって実物を観察したり、動物解説員の話や動画を聞いたりとする活動を通して、自分や既習のゾウと比べて、体のつくりと働きや暮らしに違いがあることに気付くとともに、予想しながら観察したり調べたり、分かったことを表現しながら、形には意味があることに気付き、生き物に主体的に関わる態度を養う。

本単元で働かせる科学的な見方

- ① 実証性：自分の体や既習のゾウと比較して問題を見だし、予想した上で、実際のキリンを観察したり、キリンのしっぽの毛などの具体物を触ったりする。
- ② 再現性：自分が調べたことや、動物園解説員から聞いたことを、実際のキリンが動いている様子や動画などで確認することで理解したり、新たな疑問を見だしたりする。
- ③ 客観性：動物解説員の話や動画を聞いたりと、友達の発表を聞いたりとして納得したり、自分たちが調べたことを発表したりして、他者から認められるようにする。

キリンの体のつくりと働き、暮らし、成長の様子について、観察したり調べたりして分かったことを分かりやすく伝えるために、友達と話し合いながら内容を考えることができる。 10/15 時間

自然事象との対話

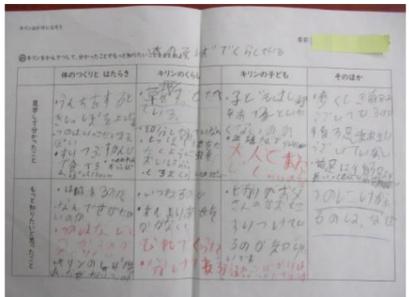
ゾウは泳ぐことができるから、キリンも泳げると思う。

キリンは何才から大人になるのかな。

キリンが歩いている写真を見せたらどうかな。

角はどんな時につかうのかな。けんかのときかな。

キリンのもようがある理由を一番に伝えたいな。



友達との対話

せつ明が短い人からはっぴょうするのいいと思うよ。



長いしっぽでおしりをはたいているね。

長いしたでまきとりながら、上手に草を食べているね。



専門家や地域の人の対話

キリンはあまり汗をかかないんだって。

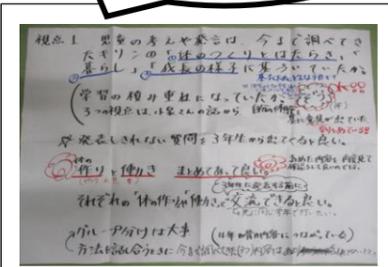
大人のキリンは立って寝るんだね。



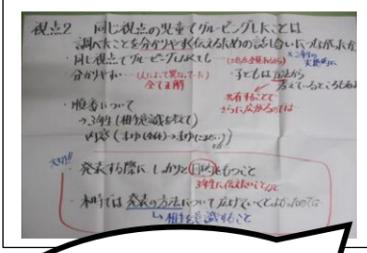
他教科との関連

国語科「どうぶつ園のじゅうい」で順序を表す言葉に着目して捉えることの大切さを学び、国語科「そうだんにのってください」で話し合いの仕方として考えをよく聞き、相手の話につなげる力を身に付けてきた。生活科「とび出せ!町のたんけんたい」では、質問を考えたり、大事なことを落とさずにメモしたりする力を養ってきた。これらの学習を生かし、自分とキリン、ゾウとキリンの違いや同じところを考えたり、比べたりしながら主体的に取り組み、協働的に問題を解決する力を養っていく。

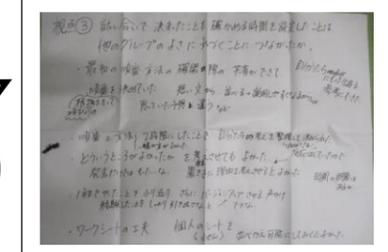
3つの観点ごとにまとめたものが掲示されていていい。



子供たちなりに根拠をもって順番を決めることができていた。



相手意識をもって発表の方法を広げていくといいと思う。



研究協議会

講師：元昭和女子大学教授
小川 哲男 先生



多様な表現ができるよう、2年生までいろいろな方法を大事にしてあげることが必要。